

こどももの詩コンクール応募作品資料

第三十四回 《優秀賞》

おかあさんへ

熊本市立古町小学校一年

よしなが ゆうが

ぼくは

おかあさんがゆでる

とうもろこしが

だいすきです

おおきいまんま

ゆでてくれます

ふたりで

がりがりたべます

にこにこです

わたしのゆめ

菊陽町立菊陽北小学校二年

片田 一花

おとうさんが

きゆうしよくの先生だったらな

大きな体のおとうさんが

つくったカレーは

せかい一おいしいから

おかあさんが

学校の先生だったらな

大すきなおかあさんと

ずっといっしょにいられて

ぜんぜんさびしくないから

お父さんの仕事

和水町立菊水小学校三年

佐久間 壮二郎

お父さんは

お酒をつくる仕事をしている

お米をむして こうじをつくって

お米をもう一回むして

こうじとお米とこうぼを入れて

発こうさせる

アルコールが出たら しぼって

びんにつめるらしい

お父さんがつくったお酒を

家を持って帰ってきた

色がとてもきれい

「すごいね。」

とぼくが言うつと

「きれいだろう。」

とうれしそうにしていた

お酒を一からつくるのは

楽しいんだって

でもときどき

「つかれたあ。」

って言っているから大へんなんだろう

仕事から帰ってきたお父さんに

「おかえり。」

って言うつと

お父さんはにっこりしていた

少しはつかれを

ふつとぼしてあげられたかな

これぐらいでお父さんが

元気になるなら

これからはかならず

「おかえり。」

って言いたいな

ぼくにはお酒づくりはむずかしそう

つくるかわりに 大人になったら

お父さんといっしょに飲んでみたいな

お母さんはふしぎだな

熊本市立日吉東小学校四年

上原 星楠

お母さんは とてもふしぎだ。

おじいちゃんが なくなつたとき

お母さんが すぐくなくていい

だが 次の日 お母さんは なかなか

どうしてかと聞いてみると

「くよくよしてもじいちゃんは、しん

ぱいしてしまふ。元気いっぱいで、じい

ちゃんを送ろう。」

といっていた

そんなお母さんを

わたしは ふしぎだと思った

でも お母さんは強い と思った

お父さんはエイプリル fool

熊本県立盲学校五年

長谷川 心美

いつもじょうだんを言つて楽しませてくれる

私のお父さん

学校に行くときに

「うわぐつ持ってきたかな？」と聞くと

「えっ？持ってきていないよ」と言う

私があわてていると

「うそそう、持ってきてとるよ。」

とうれしそうに言うから

私は「もー。」と言いながら

つい笑ってしまう

お父さんとは 大のなかよし

お父さんは おもしろい

お父さんという

私は いつも笑っぱなし

でも たまに こわいときもある

この前 テストの点数が悪かったとき

「しっかり勉強しろ！」

と言っておこられた

ちよつぱりこわかったけど

おこられた意味 わかっているよ

おこったあとのお父さんは

しばらく口をきいてくれなかったけど

私がコップに水をつけなくて

困っていたら

いつものお父さんに戻って

たすけてくれたね

でもお父さん

この前 私のおかしを

こっそり食べたのに

「食べてない。」ってウソをついたでしょ

じょうだんばかり言うお父さんという

毎日が エイプリルフルみたい

お父さんのじょうだん

それは全部

私を笑顔にするためなんだよね

大好きだよ お父さん

熊本市立古町小学校六年

豊永 りな

第二十四回

《親を大切にする

子どもを育てる会賞》

ぼくのミニトマト

熊本市立麻生田小学校二年

右田 翔大

学校でそだてた

ぼくのミニトマトが

まっ赤になった

やっとなまっ赤になった

先生がくれた

ビニールぶくろに

ミニトマトを四つ入れて

ぼくのうちへ もってかえる

おかあさんが一つたべた

「おいしいね。」

と言ってくれた

今日はパパのおべんとうに

ぼくのミニトマトが入っている

なんだか うれしくなってきた

私もだよお父さん

【参考作品】

こどももの詩コンクール応募作品資料

第三十四回 《優秀賞》

お母さんの手

氷川町立竜北中学校一年

下田 圭祐

ぼくが探し物をしていると

「どうしたの?」と言って

手をさしのべていっしょに探してくれる

宿題の量が多くて

「もうイヤだ。」といらいらしながら

机に向かってしていると

「がんばれ。がんばれ。」と言って

背中をさすってくれる

お母さんのあたたかくて優しい手

でも時々ぼくが言うことを聞けなくて

文句ばかり言うつと

「ドン!」とテーブルをたたたく手

食べ物をそまつにすると

げんこつになる時もある

でも ぼくが高熱を出して

辛かったとき

「大丈夫。大丈夫。」と言って

頭をなでたり 冷やしたタオルを顔や

頭にずっとあててくれた

お母さんのやわらかくて安心できる

手があった

ぼくが大人になったとき

お父さんさんやお母さんに

あたたかい手をさしのべられると

いいなと思っている

父は自営業

熊本市立城西中学校二年

若松 遥

父は自営業

空調整備の仕事をしている

工具を使うので

よくけがをする

大きなけがも少なくはない

背中にけがしたこともあった

傷をみると胸がいたんだ

いたそうで

かわいそうで

大変そうで

でも 仕事をする父は

楽しそうで

距離

熊本市立託麻中学校三年

有村 葉奈

母とはこれまでも何度か喧嘩をした

その度に私は泣いていた

母が理解してくれないことへの怒り

言い負かされてしまった悔しさ

自分自身への反省

理由は兎に角たくさんあった

だけど母との喧嘩と

友達との喧嘩は訳が違う

頻繁にするにも関わらず

毎回次の日にはいつも通りだ

私にとっては不思議だった

そんな中 一つ思い当たったのは

心の距離だ

心の距離が近いからこそ

お互いを想ってよくぶつかるし

心の距離が近いからこそ

次の日には笑って話せる

今 受験という

人生の分岐点にいる私にとって

母と向き合うことはとても重要だ

だからこそ

この心の距離を私なりに大切にしたい

【参考作品】

第一回《最優秀賞》

お母さん

黒石原養護学校中学部二年

藤本 猛夫

母さんは
にこにこして病棟にくる
やさしさが顔にあふれていて
ぼくは美しいと思う
ぼくの心はシャボン玉のようなはねている
母さんがいぐさの話をするとき
母さんのひとみは光っている
仕事にほこりをもっているんだらう
ぼくたちは散歩に行く
母さんはすすいと車いすをおしてくれる
みなれた風景だけど
母さんがいると変わってしまう
時間がとぶように流れる
「じゃ またくっけんね」
ふりかえり ふりかえり
母さんはかえった
ぼくは小さい声で
「母さんのカツカレーはうまかったよ」
と 言ってみた

第二回《特別賞》

宿題

熊本市弓削小学校六年

中村 良子

今日の宿題は つらかった
今までで いちばんつらい宿題だった
一行書いては なみだがあふれた
一行書いては なみだが流れた

「宿題は、お母さんの詩です。」

先生は そう言ってから

「良子さん。」

と 私を呼ばれた

「つらい宿題だと思うけど

がんばって書いてきてね。

お母さんの思い出と

しっかり向き合ってみて。」

「お母さん」

と 一行書いたら

お母さんの笑った顔が浮かんだ

「お母さん」

と もうひとつ書いたら

ピンクのブラウスのお母さんが見えた

「おかあさん」

と 言ってみたら

「りようこちゃん」

と お母さんの声が出た

「おかあさん」

と もういちど言ってみたけど

もう 何も 聞こえなかった

がんばって がんばって

書いたけれど

お母さんの詩は できなかった

一行書いては なみだがあふれた

一行読んでは なみだが流れた

今日の宿題は つらかった

今までで いちばんつらい宿題だった

でも

「お母さん」

と いっぱい書いて

お母さんに会えた

「お母さん」

と いっぱい呼んで

お母さんと話せた

宿題をしていた間

私にも お母さんがいた

第二十四回

《親を大切にする
子どもを育てる会賞》

ぼくのミニトマト

熊本市立麻生田小学校二年

右田 翔大

学校でそだてた
ぼくのミニトマトが
まっ赤になった
やっと まっ赤になった
先生がくれた
ビニールぶくろに
ミニトマトを四つ入れて
ぼくのうちへ もってかえる
おかあさんが一つたべた
「おいしいね。」
と 言ってくれた
今日はパパのおべんとうに
ぼくのミニトマトが入っている
なんだか うれしくなってきた

こびきもの詩コンクール応募作品資料

第三十四回

《熊本朝日放送賞》

みのむし姿

学校法人文徳学園文徳中学校三年

鶴田 悠真

休日布団にくるまって
横たわっている父
春夏秋冬を通して
休日に見る光景だ
父のいる空間だけ
のんびりとした時間が流れている
リビングでも
寝室でもみのむしだ
でも最近あまり見ない
単身赴任中の父
ちよつとだけ寂しい気持ちがある日
ある日
昼寝から目覚めて気がついた
自然と布団を巻きつけていた
父の布団だとより落ち着く
布団に染みついた父のにおい
太陽のような暖かい肌ざわり
その日以来
家でみのむしと呼ばれている

みのむしは僕の寝るときのルーティンだ
ちよつと照れくさい
いつか一緒に寝てみたい
みのむし親子ではなく
みのむし兄弟とよばれるかな
離れていると
何となく父が恋しい

《坂村真民賞》

お父さんのおなか

美里町立励徳小学校二年

田村 ゆず

お父さんのおなか
ぼよんぼよん
気持ちいい
お父さんのおなかは
大きい
赤ちゃんがいるのかな
お父さんのおなかは
つくえみたい
ポップコーンをのせてみたい

お父さんのおなかは
わたしのあそびば
トランポリンみたい
お父さんのおなかは
わたしのまくら
ぐつすりねむれる

お父さんのおなかは
わたしのとくとうせき
大きなおなか
これからもずつといっしょだよ

《親を大切にす

子どもを育てる会賞》

見ていてほしい

熊本市立桜木中学校二年

佐藤 大誠

お父さん
あなたが死んだことがはるか前に感じます
死ぬ前日に手を握って
「死なないで。」

と言ったこと
不登校になってから
色々なところに連れて行ってくれたこと
闘病生活を間近で見えたこと
脾臓癌だったことを知ったときのこと
お父さんが死んだときのこと
数々の共に過ごした思い出は
今も僕の脳裏に焼きついている
もしまた会えるなら
そのときは会いに行くと思う
だけど今は
きつと会わない選択をとると思う
今の僕を裏切るような気がするから
今も学校には行ってないけど
僕は今確かな道を進んでいる
夢へと続く道
険しく険しい道だと思う
だけど、この道を進み続けようと思うよ
だから見ていてね
お父さん